

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：32695

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20088

研究課題名（和文）日本におけるVFR旅行の実態と成立プロセス―訪日中国人を事例に

研究課題名（英文）VFR tourism in Japan: A Case Study of Chinese Visitors

研究代表者

李 崗 (LI, GANG)

多摩大学・グローバルスタディーズ学部・准教授

研究者番号：60832657

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：中国人の国際移動のと活発化に伴い、日本滞在の親族や友人の訪問をきっかけに訪日した中国人旅行者は増加しつつある。本研究ではまず、中国による海外旅行の拡大と親族訪問との緊密な関連性を文献分析を通して確認した。次に、中国人VFR旅行の旅行前、旅行中、旅行後の一連のプロセスにおいて、ホストとゲストとの相互交渉の実態を質的調査により明らかにした。さらに中国VFR旅行をめぐる旅行経験について、「関係(guanxi)」と人間関係の規範に枠付けられながらも、ホストとゲストが置かれている社会文化的状況によって多様な形態が表出するダイナミクスの一端を分析し、そのダイナミクスを捉えることの重要性と方法を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では、VFR旅行の概念やメカニズム、観光ビジネスとしての可能性は十分に認識されていないのが実情である。観光研究では、VFR旅行に着目した個別の研究は存在しているが、ホスト＝ゲストが置かれる社会文化的な文脈を踏まえ、VFR旅行が成立するプロセスと旅行経験にアプローチする実証的調査は、十分行われていない。こうした現状に対し、マクロな視点からの中国人VFR旅行に関する検討と、ミクロなレベルでの実証的調査を融合した本研究の研究成果は、今後、日中間の越境移動と在日中国人社会の動向に注目する観光研究や移民研究において、基礎研究としての知見を提供したものとなったと言える。

研究成果の概要（英文）：This study first confirmed the close relationship between the expansion of Chinese outbound tourism and visits to relatives and friends (VFR) through a literature review. Next, a qualitative investigation was conducted to clarify the actual interactions between hosts and guests throughout the various stages of VFR travel, including before, during, and after the trip. Furthermore, the study pointed out the importance of understanding the dynamics of these interactions, noting that the travel experiences of Chinese VFR tourists are framed by the norm of "guanxi" (relationships) in Chinese society but also exhibit diverse forms influenced by the economic and socio-cultural contexts in which both hosts and guests are situated.

研究分野：観光研究、観光人類学

キーワード：親族・友人訪問 VFR 中国人旅行者 インバウンド観光 人間関係

1. 研究開始当初の背景

親族・友人訪問を目的とする旅行は、一般的に VFR (Visiting friends and Relatives) と呼ぶ。1990 年代以降、交通網の発達と情報通信技術の進化に伴い、個人的ネットワークがグローバルに拡散するとともに、個人間の関係を誘因とする人的移動が拡大し、国際観光の主流の一つとなっている。こうした移動のなかで、従来の移民による祖国へのルーツ観光に加え、祖国に残された人々が仕事や留学、移住などの理由で、他国で生活している親戚や友人を訪問するという現象が世界的に広まった。VFR 旅行に対する学術的関心は、最初にイギリスやアメリカといった移民伝統を持つ国で高まった。当初、移民研究の一環として注目された VFR 旅行は、海外旅行や留学、海外出稼ぎを含む国際移動の活発化とともに、経営学、観光学、社会学など多様な分野から関心を集めるようになった。

2000 年代以降、日本政府による観光立国の推進と中国人海外旅行の勃発を受けて、訪日中国人旅行者が急増し、2018 年は 830 万人に達した。他方、総務省の統計によると、日本在留の中国人の数も年々増加し、2018 年には 273 万の外国人滞在者のなか、中国人が全体の 3 割近く(76.4 万人)を占めていた。日中両国間における出入国規制の緩和と双方向交流の活発化に伴い、日本滞在の親族や友人の訪問をきっかけに訪日した中国人旅行者は増加しつつある。だが、VFR 旅行の概念やメカニズム、観光ビジネスとしての可能性は十分に認識されていないのが実情である。観光研究では、VFR 旅行に着目した先行研究は存在しているが、ホスト＝ゲストの社会的・文化的背景を踏まえ、VFR 旅行が成立するプロセスと旅行経験にアプローチする実証的調査研究は、十分行われているとはいえない。VFR 旅行は他種類の旅行形態に比較し、旅行動機の形成、手配形態、旅行情報の取得方法、旅行経験の構築過程の各過程において特徴を持つ。インバウンド観光市場の細分化が進展し、日中間の人的交流が盛んになりつつある現在、中国人 VFR 旅行の現状と実態を把握することが喫緊の課題である。さらに、日本在留外国人の生活の一側面としても位置付けられる VFR 旅行について研究することは、在日中国人コミュニティに対する解の深化にもつながり、日本の多文化共生社会の推進においても必要である。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では中国人 VFR 旅行を取り巻く制度的・経済的・社会的環境をマクロに把握するとともに、VFR 旅行の関連関係者、特にホストである日本在住中国人と、ゲストである訪日中国人 VFR 旅行者の観光実践に焦点を当て、中国人 VFR 旅行の実態と成立プロセスを明らかにすることを目的とする。観光行動は旅行前、旅行中、旅行後の一連のプロセスから構成されており、また親族・友人訪問は、社会関係の形成・維持の一環として位置付けられる。このような視点から、本研究では VFR 旅行者の来日を実現されるまでのプロセス、日本滞在期間中の観光行動、VFR 旅行がホストとゲストの双方の生活に与えた経済的・社会的・文化的影響を精査する。さらに、VFR 旅行の成立と旅行経験は、ホストとゲストが置かれている社会文化的な文脈も無視できないため、本研究では中国社会における人間関係に関する規範と近年の変化についても精査する。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、本研究ではまず、中国人の訪日旅行に関する日中両国の制度的変化や、訪日中国人 VFR 旅行者の規模、目的地、旅行選好などのマクロな状況を把握するため、関連データの収集・整理を行なった。統計年鑑、在留外国人統計、観光白書、調査報告書などの統計資料を収集するとともに、日本の旅行会社や観光協会などへのインタビュー調査を実施した。

次に、VFR 旅行者の旅行動機の形成から日本滞在中の観光行動、VFR 旅行者の帰国後のやり取りまでの一連の流れのなかで、ホストとゲストの間でどのような交渉が行われ、最終的にどのような旅行経験が構築され、さらに双方の生活にどのような影響を与えたかに関して、ホストとゲストの両方に対して、インタビュー調査を行なった。ホスト家庭への訪問や日本旅行への同行を通して、ホストとゲストの日常生活と観光行動について参与観察を実施した。

本研究の初年度に新型コロナウイルスのパンデミックという未曾有の事態が発生し、結果的に研究の全期間を通して、対面での調査が影響を受けた。調査協力者とラポール(信頼関係)を築きながら対面調査を計画していたが、コロナのなかでオンラインでのインタビューと参与観察を新たな手法として取り入れた。

さらに、中国人 VFR 観光の全体像を把握し、日本における中国 VFR 旅行者の特徴を析出するために、補助線としてカンボジアにおける中国人 VFR 旅行について調査を行った。カンボジアでは、華僑・華人が多く生活しており、近年、中国人新移民や旅行者の流入が顕著となっている。調査では、カンボジア華人、中国人新移民、中国人観光客の手配を行う旅行会社などを対象にイ

ンタビュー調査を行った。

4. 研究成果

(1) 訪日中国人 VFR 旅行の歴史の整理及び現状の把握

訪日中国人 VFR 旅行の展開過程、および現状を把握するため、関連資料を収集するとともに、関係者へのインタビュー調査を実施した。中国人による海外旅行のなかで、親族・友人訪問が一貫して重要な旅行動機となっている。1983 年に香港への親族訪問の解禁をきっかけに、中国人による海外旅行が本格化した。1988 年にタイ、1990 年にシンガポールとマレーシア、1992 年にフィリピンの各国に対しても、親族訪問が中国政府によって認められた。1980 年代以降、中国残留邦人の帰国や日本留学ブームを背景に、日本を訪問する中国人は次第に増加したが、日本で中国人 VFR 旅行が広まったのは、2000 年以降のことと思われる。中国国内での急速な経済成長とグローバル化の浸透は中国人を、親族訪問を含む海外旅行へ動き出す原動力となっている。一方、日本においては VFR 旅行のホストの役割を担う中国人のコミュニティが一定規模に達し、かつ日本で留学や就職を通してある程度安定した生活を獲得し、親族を呼べるほど経済的余裕を持つ中国人が一定数現れたのである。

訪日中国人旅行者が増え、旅行目的も多様化するなかで、中国人 VFR 旅行者の実態を量的に把握することは困難であることが明らかとなったため、日本在住の中国人が集まるバーチャルコミュニティや SNS にて、データ収集と参与観察を行った。現地調査では、東京、大阪、京都、名古屋在住の留学経験者に調査対象を限定し、彼らの VFR 旅行への関わり方とホスト経験を継続的に調査することとした。このことにより、訪日中国人 VFR 旅行の実態の一端とそれを取り巻く社会的環境の動向を把握することができた。

(2) 訪日中国人 VFR 旅行の成立プロセス

新型コロナウイルスの流行のなか、観光倫理や福祉の問題が盛んに議論されている。本研究の研究目的を達成するには、友人・親族関係に介入する調査者の倫理的配慮が問われるため、関連文献とガイドラインの調査を進めた。そのうえで万全な倫理的配慮を努めながら、本研究では VFR 旅行の成立プロセスと旅行経験を把握するため、在日中国人の協力を得て、旅行前、旅行中、旅行後におけるホストとゲストとの相互交渉の内容およびホストのホスティング行為について、オン・オフランでの半構造インタビューと参与観察を行った。ホストとなった調査協力者の許可を得て直接自宅を訪問し、ホストの接待場面やゲストとのやりとりを観察し、ゲストである VFR 訪問者に滞在中の活動や訪日体験について聞き取り調査を実施した。さらに、筆者と WeChat の友達となったホストの Web 投稿を随時確認し、必要に応じて追加のインタビュー調査を行った。

こうした調査から、訪問のタイミングについて、家族訪問の場合、ホストやゲストのライフサイクルのステージに合わせて、あるいは急病といった緊急事態のため訪日を決定したケースが多いことが明らかとなった。VFR 旅行をめぐって、ホストとゲストの間では観光行動が発生する前から相互交渉が開始し、交渉のプロセスと内容が観光行動の実現、および来日後の旅行経験に大きな影響を与えることが明らかとなった。特に、VFR 旅行者が親族訪問ビザで来日する場合、ビザ申請時にホストによる証明書類の提供が必要なため、ホストは旅行前の計画段階から関わるケースが多く見られた。来日日程、航空券の予約、日本の観光地情報などがホストとゲストとのインタラクションの焦点となる。インタラクションの範囲と回数は、ゲストの訪日回数や情報収集能力、日本への関心度などの個人的要素に左右されることが明らかとなった。ゲストが滞在中の旅行先は、来日回数、ホストの旅行志向と本国のメディアにも影響されることを発見した。また、ホスト自身が訪問したかったがこれまで訪問する機会がなかった遠方の観光地や中国人観光者にとっての人気観光地を、VFR の来訪をきっかけに休暇を取って訪ねるケースも確認された。

(3) 訪日中国人 VFR 旅行の旅行経験 「関係(guanxi)」という規範に着目して

VFR 旅行の成立と旅行経験は、ホストとゲストの社会的・文化的背景や双方の関係性に影響されることが確認された。「関係(guanxi)」という中国独自の社会規範を手掛かりに、中国人 VFR 旅行者の訪日をめぐるホストとゲストのインタラクションに焦点を当て、特にホストのホスティング経験について質的調査を実施した。ホストとゲストとの関係性(情感型関係、混合型関係、道具型関係)によって相違が見られた。一例として、同伴者がいる親友や一般の友達が来日する場合、商業的宿泊施設を利用するのが暗黙のルールとして機能していると見て取れた。親族の来訪を受けた調査対象者の全員は、来訪者を自宅に招いて食事と宿泊の両方を提供したことが明らかとなった。親族の来訪を受けた調査対象者は、親族の旅行ニーズを積極的に満足し、「中国の自宅にいる」と感じてもらうように努めた。親族の来訪により、家事や育児、食事準備などにおいて親族の手伝いでホストの負担が軽減され、家族と過ごす時間が伸びたというネガティブな影響も見て取れた。だが、ゲストの来訪はゲストに経済的、身体的、精神的な負担を与えうる。特に、日中における日常生活環境や習慣の違いから、ホストとゲスト両方の行動が制限され、関係性に変化があることも見られた。

本研究では、中国人 VFR 旅行の実態をマクロな視点から把握しながら、継続した現地調査に

基づき実証的研究を行った。研究期間中、日本観光研究学会の全国大会や新型コロナ特別プロジェクト、観光学会、北海道大学での研究会など、各種学会や研究会で発表・発信した。また、中国における観光研究の動向や、中国人 VFR 旅行者の旅行経験をめぐるダイナミクスについて、それぞれ現時点での研究成果を論文にまとめ発表した（詳細は発表論文等のリストを参照）。

さらに、本研究が目指す目標の一つとして、中国人 VFR 旅行者の実態を解明することで、日中両国の相互理解を促進する一助となることがある。そのために、学術的成果発表のほか、多摩大学が所在する神奈川県藤沢市と鎌倉市の市民講座の講師を積極的に担当し、大学生をはじめとする若者や一般市民に向けても発信してきた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 李崗	4. 巻 -
2. 論文標題 訪日中国人VFR旅行に関する一考察 ホストとゲストとの関係(guanxi)を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第36回日本観光研究学会全国大会 学術論文集	6. 最初と最後の頁 281-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李崗・板垣武尊	4. 巻 16
2. 論文標題 中国新移民とカンボジア・シアヌークビルの社会的変容：一帯一路を背景に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要	6. 最初と最後の頁 99-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣武尊・李崗	4. 巻 65
2. 論文標題 クメールはできる：観光を通じたナショナリズムの生成	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 27-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣武尊・李崗	4. 巻 38
2. 論文標題 シアヌークビルにおける観光空間の棲み分け	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 393-398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 訪日中国人VFR旅行に関する一考察 ホストとゲストとの関係 (guanxi) を手がかりに
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 無形文化遺産と観光文化のはさま 「徽州地域」の祖先祭祀を事例として
3. 学会等名 観光学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣武尊・李崗
2. 発表標題 シアヌークビルにおける観光空間の棲み分け
3. 学会等名 日本観光研究学会第38回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 中国の無形文化遺産登録と観光
3. 学会等名 北海道大学大学院メディアコミュニケーション研究院・メディアツーリズム研究センター主催研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

・2024年度第1回 鎌倉ホスピタリティ観光セミナー
<https://t-collabo.com/event/kamakura-city-2/>
・2023年度 藤沢ホスピタリティ観光セミナー 「友人・親族訪問が地域観光を救う？」
<https://www.tama.ac.jp/topics/news/wp-content/uploads/sites/2/2022/04/sgs-seminar.pdf>
日本観光研究学会・新型コロナ特別プロジェクト「早期終息のうえでの観光復興 中国の新型コロナウイルス対応」
<https://jitr.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/JITR-covid19-report.pdf>
多摩大学 教員紹介（業績公開）
https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/gang_li.html
研究者情報（J-Global）
https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=201801008692435310

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------